

循環型社会

環境にやさしい容器包装



ユニーはお客様が自分で商品を選び、レジで清算するセルフサービスで販売しており、ほとんどの商品は容器に入れられ、包装されています。容器包装には、商品の品質保持や衛生安全のために、また持ち運びを安全で便利にする目的があります。しかし、これらの容器包装が家庭ゴミの50%を占め、廃棄処分やリサイクルに多くの手間やエネルギーが使われ、CO₂排出による地球温暖化の原因にもなっています。ユニーでは容器包装をできるだけ使わないお買い物や使用済み容器包装のリサイクル、サステナブルな原料の容器包装の使用を推進しています。

① 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ◆ ノーレジ袋キャンペーン
- ◆ レジ袋無料配布の中止
- ◆ ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- ◆ どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- ◆ トレイを使わない販売の検討
- ◆ 贈答品などの簡易包装
- ◆ マイボトルやマグカップなどの利用促進

② 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- ◆ リサイクルによる店頭回収
- ◆ 再生資源として製品（トイレットペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- ◆ 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

③ サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- ◆ 環境配慮PB商品eco:lonの容器にバイオマスプラスチックを使用
- ◆ 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- ◆ 生鮮食品の販売に生分解性バイオプラスチック、ポリ乳酸製パックを使用

① 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

スーパーでレジ袋の配布を始めたのは1970年代、薄くて丈夫、水に強く便利なことから瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度使うと廃棄されてしまい、自然界では分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながる大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まりました。ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組みんでいます。2001年からは「ノーレジ袋キャンペーン」を開始、さらに啓発を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO₂が発生することや原料である化石燃料（石油）の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋の無料配布中止に踏み切りました。

レジ袋削減のための取り組み

お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「レジ袋をもう一度使おう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのお買い物」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



ノーレジ袋キャンペーン

2006年から「レジ袋を使わないお買い物」をお客様と一緒に進めるために、ポスターや館内放送でアピールし、レジ袋の辞退率を高めることができました。



レジ袋の無料配布中止

全店の食品売り場でレジ袋無料配布を中止にしました。



アビタ伊勢崎東店

レジ袋辞退率の推移



レジ袋使用量の推移

| 年度 | 枚数(単位:千枚) | 重量(単位:t) | 備考 |
|------|-----------|----------|----------------------|
| 2005 | 340,611 | 2,195 | 愛・地球博エコマネーに参加 |
| 2006 | 333,630 | 2,075 | ノーレジ袋キャンペーン開始 |
| 2007 | 310,559 | 1,818 | レジ袋無料配布の中止 |
| 2008 | 309,222 | 1,851 | 96店舗で無料配布中止 |
| 2009 | 134,878 | 1,029 | 170店舗で無料配布中止 |
| 2010 | 116,749 | 964 | 約73%の店舗で無料配布中止 |
| 2011 | 111,632 | 851 | 四日市市・弥富市などの店舗が加わる |
| 2012 | 110,743 | 839 | 約80%の店舗で無料配布中止 |
| 2013 | 109,528 | 821 | 滋賀県、長野県、愛知県全域で無料配布中止 |

容器包装リサイクル法への対応

| 年度 | 委託金額 |
|------|-----------|
| 2005 | 2億5,487万円 |
| 2006 | 2億7,322万円 |
| 2007 | 2億9,729万円 |
| 2008 | 2億7,978万円 |
| 2009 | 2億2,272万円 |
| 2010 | 1億6,655万円 |
| 2011 | 1億6,154万円 |
| 2012 | 1億4,868万円 |
| 2013 | 1億5,804万円 |

※2008年にユーストアと合併し80店舗増える
※容器包装リサイクル法に基づき、財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

レジ袋無料配布中止（有料化）

ユニーは、2007年6月に、横浜市のピアゴ中山店（旧ユニー中山店）で初めて有料化を開始しましたが、単独での実施だったため、自治体や消費者・同業者との連携が取れず、またお客様からのご理解がいただけず来店客が減少、売り上げも一時低迷するといった厳しいスタートでした。

店舗での啓発活動の結果、売り上げは持ち直しましたが反省することがたくさんありました。これ以降、ユニーは自治体や市民との合意のうえ、周辺の近隣の同業社とも連携し、地域全体で取り組みました。その後は大きな問題もなく地域を拡大、2014年2月20日には全店舗レジ袋無料配布中心（有料化）を実現しました。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

地球環境活動に寄附

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を、地域の自治体の環境活動に寄附します。
■2013年度実績
102市町 185店舗 2,563万2,688円

全店舗でレジ袋有料化

2014年2月20日より、ユニー全店舗の食品売場でレジ袋無料配布中止を実施しました。2007年6月に横浜市のピアゴ中山店（旧ユニー）を最初に、次々に各地域の自治体や市民の皆様、同業他社と協働でレジ袋の有料化を進めてきましたが、ようやく全店舗で実施することができました。また、この活動はお客様のご理解あつてのことなので、各店舗ではお客様への啓発活動を自治体と一緒に開催しました。

※2014年2月20日よりレジ袋を有料化した店舗

| 店舗数 | 店舗数 |
|------|-----|
| 新潟県 | 3 |
| 栃木県 | 2 |
| 群馬県 | 6 |
| 埼玉県 | 6 |
| 神奈川県 | 7 |
| 千葉県 | 3 |
| 静岡県 | 3 |
| 京都府 | 1 |
| 奈良県 | 2 |
| 合計 | 33 |



横浜市 アビタ長津田店

埼玉県 アビタ吹上店

栃木県 アビタ足利店

群馬県 アビタ高崎店

減装ショッピング

使用済み容器包装が家庭ゴミの50%（容積）といわれ、使用削減と容器包装の軽量化などによる排出抑制が廃棄物削減の大きな課題です。ただし、容器包装には商品の鮮度や品質を保全し、消費者が安全・安心に商品を持ち帰る機能が必要です。こうした容器包装の機能を持ち環境負荷を低減した環境配慮設計された容器包装をメーカーに提案、そうした商品を品揃えて消費者に購入していただくことは小売業の役割だと言えます。

そこで、中身に対して容器包装の割合（重量）の少ない商品やPOPIにマークを付けて消費者に紹介したうえで購入を促す「減装ショッピング」を提唱しています。これを推進する神戸大学とNPOに協力し、使用済み容器包装の発生抑制に効果の実証試験を支援しています。2013年は名古屋にある椋山女学園大学の学生も協働で実施しました。

マークのついた商品の販売増加はまだ数字に表れてはいませんが、消費者には関心を持っていただけました。



減装ショッピングをお客様にアピール

売場に掲示

子ども達に紙芝居で説明

飲み終わったペットボトルでエコ工作

② 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーではお客様の家庭から排出されるゴミを削減し再生資源とするために、食品取り扱い店舗全店で使用済み容器包装を店頭で回収したリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会構築」のための取り組みの一つです。リサイクルボックスで回収する容器包装は再生利用ルートを確認し、国内で循環するシステムで運用しています。各店舗では回収実績を毎月集計し、ポスターで公表しています。またリサイクル製品を分かりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただけるようにしています。お客様の意識も変わり、年々店頭回収量は増加しています。今後は価値を高めるリサイクルのルートづくりを構築することによって、お客様にもさらなる啓発を進めていきます。



回収した容器はリサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO2排出などが問題にされることがあります。ユニーでは店舗から物流センター内のリサイクルセンターへの搬送に配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO2の排出削減に努めています（現在中京地区・北陸地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場に搬送しています）。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器包装を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮、それぞれのリサイクル工場に搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

容器包装リサイクルの仕組み



使用済み容器包装のリサイクルループ

牛乳パックのリサイクル

牛乳パック、トイレットペーパー、他の古紙とともにユニーの包装紙・紙・トイレットペーパーに再生しています。

店舗: リサイクルボックスで回収

リサイクルセンター: 計量

リサイクル工場: 自動包砕機でトイレットペーパーを包砕、抄紙機で紙漿を作り、リソルバーで巻きなおして製紙

リサイクル: 再生紙

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 (年度) |
|-----|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 回収量 | 635,332 | 621,980 | 599,709 | 578,332 | 609,139 |

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 参加店舗数 | 223 | 223 | 217 | 217 | 220 |
| 参加率 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 回収量 (kg) | 635,532 | 621,980 | 598,709 | 575,332 | 609,139 |

発泡スチロールトレイのリサイクル

フラワーポットやベンチ、ペン立てなどの日用品に

店舗: リサイクルボックスで回収

リサイクルセンター: 計量

リサイクル工場: フレーク、洗浄・脱水してペレット(チップ)もろかにする

リサイクル: 日用品

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 (年度) |
|-----|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 回収量 | 333,789 | 321,549 | 304,644 | 291,151 | 306,416 |

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 参加店舗数 | 223 | 223 | 217 | 217 | 220 |
| 参加率 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 回収量 (kg) | 333,789 | 321,549 | 304,644 | 291,151 | 306,416 |

アルミ缶のリサイクル

薄い板にして、アルミ箔に加工する

店舗: リサイクルボックスで回収

リサイクルセンター: 計量・圧縮

リサイクル工場: 溶かしたアルミニウムを塊(再生地金)にする

リサイクル: 再生地金

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 (年度) |
|-----|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 回収量 | 474,305 | 521,590 | 524,081 | 555,683 | 616,156 |

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 参加店舗数 | 172 | 223 | 217 | 177 | 193 |
| 参加率 (%) | 77.1 | 77.6 | 79.7 | 81.6 | 87.7 |
| 回収量 (kg) | 474,305 | 521,590 | 534,081 | 555,683 | 616,156 |

ペットボトルのリサイクル

制服、ジャンパー、文房具などに

店舗: リサイクルボックスで回収

リサイクルセンター: 計量・圧縮

リサイクル工場: フレークを溶かして透明なPET樹脂に戻す

リサイクル: PET樹脂

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 (年度) |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 回収量 | 1,619,948 | 1,755,475 | 1,760,944 | 1,865,920 | 2,211,850 |

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 参加店舗数 | 172 | 223 | 217 | 184 | 193 |
| 参加率 (%) | 77.1 | 81.6 | 82.0 | 84.8 | 87.7 |
| 回収量 (kg) | 1,619,948 | 1,755,475 | 1,760,944 | 1,865,920 | 2,211,850 |

店頭回収の現状

リサイクルボックスでの回収実績

2013年度のリサイクルボックス回収実績は、4種類とも前年を上回りました。これは、リサイクルボックス設置店舗を増やしたこと、お客様の資源再生に対する理解向上の成果と考えられます。特にペットボトルの回収量増加が顕著です。これは自治体回収や集団回収では常に回収していないため、いつでも持って来られる店頭回収の利便性の高さが回収率に繋がったといえます。店頭回収は作業的には大変ですが、お客様と一緒に循環型社会を構築することができ、環境貢献として大切なことと考えております。

リサイクルボックスでの店頭回収量

| | アルミ缶 | 牛乳パック | 発泡トレイ | ペットボトル | 店舗総合計 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| 回収店舗数 | 193店舗 | 220店舗 | 220店舗 | 193店舗 | — |
| 回収店舗 | 87.7% | 100% | 100% | 87.7% | — |
| 全社合計 | 616,156kg | 609,139kg | 306,416kg | 2,211,850kg | 3,743,561kg |
| 41期実績 | 555,683kg | 575,332kg | 291,151kg | 1,865,920kg | 3,288,086kg |
| 前年比 | 110.9% | 105.9% | 105.2% | 118.5% | 113.9% |

③ サステイナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時にもCO2を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。



バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に戻ります。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器包装を使っています。植物は光合成により大気中からCO2を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サステイナブル(持続可能な)原料です。

バイオマスプラスチックの特徴

バイオマスプラスチックは石油由来のプラスチックと異なる特徴があります。

- 1 植物が原料なので、石油資源が節約できます。
- 2 植物は地球上のCO2を吸収するので、焼却処分してもCO2を増やしません。
- 3 ポリ乳酸のような生分解性のあるものは、生ゴミなどの堆肥に入ると、熱と水分で水とCO2に分解し廃棄物になりません。
- 4 使用済みバイオマスプラスチック製容器は、回収しリサイクルしています。

バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)製容器包装

ユニーではサステイナブル(持続可能な)資源であり、CO2を増やさないことから、2006年より卵ケース(きらら紅)と青果売場で透明ケースやカットフルーツカップにバイオマスプラスチック(ポリ乳酸)を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装

植物性のバイオポリエチレン

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装(液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋)に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO2を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サステイナブル(持続可能な)原料です。

レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布を中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO2を17%削減します。ユニーとしてはCO2を年間262,231kg削減します。(試算: 補助工業)

